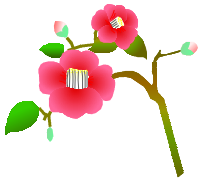
人穴小 学校だより

ふれあい



令和4年　　1月31日
富士宮市立人穴小学校
第９号

ＴＥＬ５２－００４０

ホームページ　http://www.fujinomiya-shizuoka.ed.jp/e-school/14hitoana/

学校教育目標　『自らをきたえ　共に生きる子』

感謝の気持ち

立春をむかえ、暦の上では春の始まりとなります。今年は寒い日が多く、今後も数回は積雪があるのではと心配しています。しかし、氷点下の朝も「おはようございます」と、元気よく登校する子供たちの明るい声が響いています。

１月には、「人穴小学習発表会」を行い、保護者の皆様に子供たちの学習の成果をご覧いただきました。全校合奏やお話の泉、人穴浅間太鼓など、昨年度はできなかったことも行いました。ご協力ありがとうございました。コロナ禍のため「学校と地域のつどい」を行うことはできませんでしたが、子供たちの学びは前に向かって進んでいることを感じていただけたと思っています。子供たちにとっても有意義な時間となりました。このような形で開催できたのには、地域の方々のご理解やご協力があってのことと考えています。年度末に向かい１年を振り返る時期、人穴小を支えてくれている大勢の人たちがいるから、毎日明るく元気に学校生活を過ごすことができていることを、子供たちと共に考えていきたいと思っています。

２月の朝礼では、生活目標「感謝の気持ちを伝えよう」に関連して、以下のような話をする予定です。

「感謝」という言葉を漢字でみると、まず「感」という文字は「感じる、心が深く強く動く」という意味です。そして「謝」という文字は「言」という字と「射る」という字でできています。「言」は言葉のこと、「射る」は弓を使って矢を放つときに使う言葉です。ですから「謝」は、「言葉を射る」「言葉を発する」ということで、言葉で伝えるという意味になります。ですから、「感謝」は、「心が強く動いた、その気持ちを言葉にして伝える」ということになります。「心が強く動く」場面はいろいろありますが、中でも深く心が動くのは、何かに「ありがとう」の気持ちを感じるときだと思います。だから「感謝」は、「人やもの、ことに対して、ありがとうと感じる気持ちを言葉や態度で伝える」ということなんだと思います。ここで、大切だと思うことは、「伝える」ということです。せっかくすてきな思いを持っていても、思っているだけでは相手に伝わらないということです。是非、言葉や態度で「伝える」ことを大切にしてください。

もう一つ、大切なことがあります。それは「ありがとう」という気持ちを持つことです。「ありがとう」は、「ありがたい」が語源で「有り難い」と書きます。「有る」ことが「難しい」ということで「めったにない」「珍しくて貴重だ」という意味になります。ですから「ありがとう」の反対の意味の言葉は「当たり前」になります。当たり前だと思っていると「ありがとう」という気持ちを持つことができません。感謝の気持ちが持てないわけですから、伝えることもできません。何かをしてもらって「当たり前」、普段どおりに過ごせて「当たり前」と思っていては、「感謝」の気持ちが持てなくなってしまいます。「有り難い」の気持ちで、学校生活や家庭生活、地域での生活をもう一度見つめ直してみましょう。きっと、たくさんの「ありがとう」が生まれると思います。